

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600424		
法人名	有限会社カスタネット		
事業所名	グループホームかすたねっと 1階		
所在地	京都市左京区岩倉花園町401		
自己評価作成日	令和5年2月11日	評価結果市町村受理日	令和5年5月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とご家族を尊重し、「思い・やりたいこと」を実現するために、日々の生活において楽しく安全に充実した人生を送れるよう、全力でサポートしています。あらゆる面で各個人のニーズや改善点を的確に掴み、日々期待を超えるサービスを提供するよう、全職員が統一した考えで職務を遂行しております。また、日常生活を通じて毎日の筋力体操や散歩などを行うことにより、筋力の維持向上に努めております。ただ、コロナ禍の期間は外出が自由にできず、筋力体操に力を入れています。玄関やホールには季節に応じた花を飾り、フロアには季節ごとの飾り絵を利用者様と共に作り上げ、展示することで皆さまに季節を感じていただけるようしております。これらを通じて利用者様と職員がお互いに喜びを分かち合えることと思います。事業所内では常にアットホームな雰囲気の中で明るく楽しい、充実した日々を送っていただけるよう常に笑顔を意識しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosvoCd=2670600424-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和5年3月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階に同じ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が「会社理念」・「私たちの行動指針」を理解した上での職務を遂行している。また、各利用者様が明るく楽しく、その人らしい生活を送っていただけるように支援も行っている 職員は日々の業務時間中やカンファレンスなどで話し合い、日々の振り返りと改善に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長引くコロナ禍の間は、地域の方々との交流は理想通り実現できていないため職員は出勤時や外出時などを利用して、ご近所の方とのコミュニケーションを図るように努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の住民の方にお会いしたときは必ず挨拶するなど普段から事業所の存在を認識していただけるように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回サービスの実施状況、事故、ヒヤリハットの報告やご意見をいただいたり地域のイベントごとなどの情報をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	京都市の取組など(京都市情報館の通知内容についてなど)わからないことは市や区の担当者様に確認するようにしている 事業所の改善のための相談などは地域包括支援センターに相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個別の動画研修の他【身体拘束廃止委員会】を3ヶ月毎に行い、全職員が身体拘束について話し合っている 常に現場での身体拘束にあたる行為が無いかチェックも行ない利用者様の尊厳を第一に考えた支援を提供できるように日々の業務に努めている。		

京都府 グループホームかすたねっと 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、個別の動画研修を行い。またカンファレンスにて年に2回以上の研修・話し合いを実施している また日々のケアにおいて職員全員が虐待について常に意識して、業務を遂行している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を通じて、権利擁護や成年後見制度などについて知識を得る機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にはご本人様とご家族に十分な説明を行って質問などがあればその場で解決するようにしている 契約内容に納得された上で署名、捺印をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族のご意見やご要望を聞き、定期的なカンファレンスや連絡ノートを活用して職員全員が共有して日々の改善を行い実践している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や日々の業務において職員からの意見や要望を聴き、それらについて話し合い解決・改善・実践とフォローを行っている また、定期的に管理者が職員全員とのヒアリングを行って意見や要望などを聞く機会も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修費用の補助や残業ゼロの取組、処遇改善加算の分配方法の選択などを行い職場の環境の改善を図っている。また要望のあった施設設備についても適宜整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間計画を立案し、それに基づいて職員全員が参加する仕組みを構築している。それらの研修で習得した知識を基に社内勉強会を実施して、知識の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため他事業所への訪問は行えないが同法人の他事業所とは定期的に会議を開催してサービス内容等について話し合っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の生活歴・趣味・嗜好などを知り、ご家族に聞き取り本人様のお話を傾聴しながら少しずつ不安を取り除いて行くように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍で長時間の面会ができないが電話で様子を報告し、ご家族様の要望などをお聞きしながら話し合い、信頼関係を築ける様に努めるいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際には他サービスの説明もを行い、状態に応じては他事業所の紹介もしている（特別養護老人ホームの紹介など）。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理などできる範囲で一緒に行き、自分で出来ることは出来る限り自分で行っていただくようにお声掛けしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご連絡を行い日々の様子をお伝えして、3か月に一度広報誌を作成してお渡ししている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望の美容院や昔から通っていた病院に継続して受診していただけるよう支援している。ご希望がある時は電話にて家族様やお知り合いの方などにお話をさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様どうしの関係(気の合う合わない)を把握するために常に利用者様の言動に注意している。お手伝いを一緒に行うように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもご家族様から相談がある時はいつでも受け入れる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや何をしたいかは毎日の行動や言動などで理解し、みんなで様子観察して話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方は日々の関わりの中でご家族やご親戚、ご本人などから情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らし方や体調の変化など必ず申し送りし把握に努めている。できること、出来ない事を見極めケアプランに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人と向き合い話し合い、またはモニタリングにてご本人・家族様の要望を聞き、主治医・看護師の意見提案を介護サービス計画を作成する		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り、または夜勤者の申し送りなどで利用者様のその日の様子を伝え、記録を記入したり口頭で伝えたりし、情報を共有して介護計画の見直しとかもやっている。		

京都府 グループホームかすたねっと 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人自身の望まれるサービスを考え、他サービス事業所(例、有料の訪問介護)との連携で実現可能なことについてはできるかぎり実施するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ることの多い方は出来るだけ本人でして頂き、出来ない方でも少しでも何か出来るようなことを見つけて毎日を楽しみ過ごし、出来るように心掛けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に主治医を確認し入居後も今までのかかりつけ医に受診されるか往診に変更されるか選択していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職員との連携が出来るような体制を整えている。介護職員は利用者様の事について何かあれば直ちに連絡を行い助言をいただき受診などを行っている。また、週一回の看護師によるメディカルチェックも実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が医師の判断で入院した際に医療関係者との協議・情報交換を実施して、安心して治療が出来るような体制を整えている。また、退院後はご利用者様に適切な処置を行うような体制も整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の重度化や終末期の場合、主治医より説明内容をご家族様に報告して希望を聞き、職員も含めて今後の方針を決定して変化に合わせた対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故発生時のために緊急時マニュアル・事故防止対策マニュアルを作成して定期的な研修を実施している。また、消防署員指導の下、応急処置などの講習会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策について施設内で年2回の避難訓練を実施している そのうち1回は消防署立ち合いで指導とアドバイスを受けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊重を傷つけないよう、またプライバシー確保のために接遇の研修を行い言葉と態度には特に気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思の疎通が困難な利用者様については、日々の言動から思いを推測するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムも大切にしながら利用者様の希望最優先で一人一人のペースで生活できるよう務める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみはなるべくご自身で行っていただくよう声掛けをしている 意思疎通が難しい方はご家族から好みの聞き取りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みに合わせて日々の献立や誕生日会・行事などのメニューを決めている盛り付けや後片付けなど出来る方には手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録をして把握している各利用者様に合った食事形態にして、安全に召し上がって頂けるように工夫している。		

京都府 グループホームかすたねっと 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや一部介助にて口腔ケアの支援を行っている また、歯科医、歯科衛生士による定期的な訪問診療も行う。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを利用し、2～3時間の間隔で声掛けや誘導など行う 立位の難しい方はベッド上にて排泄介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と食事の前に体操をして、食べ物はゆっくり噛んで食べられるようにする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様一人一人の体調や希望に合わせて週2回以上入浴していただいている。入浴時の温度調節に気を使い快適に入浴できるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて布団を提供し、定期的に洗濯して清潔さを維持し、一人一人の生活習慣に合わせてゆっくり休んで寝られるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬の用量と内容を正確に知り、服薬による体調の変化が合った時に職員全員がわかるように管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活力によって出来ることを楽しく出来るようにして、気分を合わせてレクリエーションを支援している。		

京都府 グループホームかすたねっと 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に応じて季節に合わせて花見や紅葉を見に、近くを散歩したりドライブに出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物同行が出来ない分、買い物代行を行っている。紛失してしまうリスクが高いため現金の所持はしていただかないようにして必要なときは事業所が立て替えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば電話をかけている 家族様からの電話は取り次ぎ会話を楽しんでもらったり耳の不自由な方は筆談で伝えている 手紙も住所など記入してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の温度・湿度が一定に保たれるよう冷暖房や換気で調整している ホールや廊下は季節感を出すため、壁画などの作品を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを設置し寛げる空間を作っている 自席も定期的に席替えを行い、利用者様同士、談笑できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で過ごしておられた時の大切なものを持参していただき居室に置いている 衣類などの洗濯物は一緒に片付けるようにし、整理整頓している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所などは場所が分かるように表示し、案内板を設置している 共同で使用するティッシュペーパーなどは置き場所を変えないようにしている		